

独断

注目商品

REVIEW

「軽トラは白」からの意識改革 オレンジ、カーキなど8色で展開

5 ハイゼットトラック



■スタンダード“農用スペシャル”（5MT）982,800円（税込）
（リサイクル料金、オプションバック含まない）
※北海道価格は10,800円（税込）高

■お問い合わせ
・最寄りのダイハツ販売会社
・ダイハツ工業㈱ お客様相談室 TEL：0800-500-0182

軽トラックは農業者にとって「相棒」とも言える存在だろう。日常の足であり、機械や道具、農産物を運ぶトラックであり、ある時には農業機械と呼びたくなるようなハードワークもこなす場合がある。そして、マルシェに出展する際には店舗としても活躍している。

去る9月2日、ダイハツ工業㈱が軽商用車「ハイゼットトラック」の15年振りのフルモデルチェンジを発表した。注目を浴びたのは、車内の快適性や使いやすさを改良したこと

と、「農業女子」仕様のライトローズマイカメタリックなど全8色のカラーバリエーションだ。

「しやすさ」を追求した改良

同社が前回15年前にモデルチェンジした際のターゲットは「壊れない・錆びない」だった。軽自動車の規格ギリギリに荷台サイズを広げ、積込性能や耐久性、特に防錆性能の向上に力を注いできた。軽トラックは商業車ゆえに、塗装は定番色に限定して、たくさん積載できて丈夫で、な

おかつ求めやすい安さを追求してきただけである。その観点で見ると、今回のモデルチェンジは方向性が異なると言えるだろう。もちろん、最大19・6km/ℓという低燃費を実現したり、樹脂製のフロントパネルを採用したり、基本性能にも配慮しているが、最も目立つのは、「しやすさ」を強調している点だ。

高齢者や女性の乗り降り、運転、走り、会話、操作、そして、最後に「お願い求めしやすさ」と、まるで謳い文句が家用車のごとくである。それだけ長時間仕事で利用しているユーザーが快適に過ごせる空間づくりのための改良が加わっている。

豊富なオプションから「選べる」

モデルチェンジに先だって同社がユーザーに調査した結果は、一言でいえば、農業界に限らず、多様な客層が利用し、多様なニーズを持っているということだった。それらのニーズに応えるべく、用意したのが自分仕様にカスタマイズできる豊富なバックオプションである。

その一例が、農水省が昨年発足させた「農業女子プロジェクト」に参画して、農業女子と呼ばれる女性農業者の意見を反映した「農業女子

バック」である。例えば、日焼けを意識する女性の声は、紫外線や赤外線を遮る加工をフロントガラスや窓に採用するという形で実現した。

カラーバリエーションは、車体の外観に合わせて、一部は内装のオーディオ周りのパネル色にも連動する。標準色の白色の他にオレンジ、カーキ、ライトローズ、ブラック、ブルー、ミストブルー、シルバー、全部で8色の展開だ。さらにメッキ加飾、キャビン、荷台、安全、省力、防錆のバックオプションがあり、農業仕様の「農用スペシャル」には、いずれも適応可能である。

ただでさえ、技術的に新しい技術を導入しては圃場で試行錯誤してきた皆さんにとっては、目立たない白色の軽トラに利便性を感じるだろうか。それとも、思いつきカラフルなトラックに更新されるだろうか。「選べる」時代の波は軽トラックにもやってきたようだ。

（加藤祐子）



室内収納は運転席から届く範囲に20カ所